



学校だより

絆の草中

草野中学校 令和5年度第11号

令和5年7月20日

文責：校長 西田 英実

第1学期が終わります 充実した夏休みを

72日間の第1学期が終了します。この間、通常の学校生活に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、大きな事故なく1学期を終えることができました。終業式では、おもに次の点を話しました。

【1学期の良かったこと】朝の元気な挨拶など礼儀正しいこと、素直で活発、自分から学習に励む生徒が多いこと、生徒会活動や部活動などに一生懸命汗を流したこと。

【夏休みの生活について】命と健康を大切にすること、人としての道はずさないこと、学習・進路・部活動など先を見て行動すること、お盆や終戦記念日など日本の文化・歴史に触れること、家族の一員として手伝いなどをすること。ぜひ、充実した夏休みにしてほしいと思います。

震災から学ぶ防災学習 1年生

東日本大震災発生から12年以上が経ち、震災を直接体験していない、もしくは記憶がない生徒が増えてきています。「風化」と「風評」が進む中、当時、福島県で何が起こり、どのように復興してきたか先人達の経験と努力を後世に伝えることは大切です。また、この経験から学び、新たな災害に対し、防災、減災ができるよう、防災教育を進めています。

7月12日(水)、1年生は「東日本大震災・原子力災害伝承館」(双葉町)及びJピレッジ(広野町)を訪問。福島県が受けた影響について学び、防災意識を高めました。

一人一人学習新聞にまとめています。感想の一部を紹介します。 ※2年生については次回紹介します。



津波被害を受けた消防車を見学する生徒たち

＝生徒の感想から＝

○私は、初めて「語り部講話」を聞き、展示を見学して、自然災害などに興味をもちました。災害や人災などで苦しんだ人がとても多く、復興に時間がかかったことが分かりました。

○施設に入ると、たくさんの人の写真が展示されていました。泣いて、笑って、太陽に祈って。まるで福島の「夜明け」を願っているようでした。

○私たちにできることは、訓練をしたり、災害(避難用)バッグを準備したりすることだと思います。

中学生弁論大会 堂々とした意見発表でした

7月13日(木)、いわき北地区中学生弁論大会が行われました。コロナ禍のため、4年ぶりの開催でした。この大会は、「社会を明るくする運動」の一つとして、各中学校から生徒が集い、より良い地域社会づくりへ向けて自分の考えを発表するものです。関係機関のご努力とご協力に感謝致します。

どの中学校の生徒も礼節、助け合いなど様々なテーマについて考えを深め、しっかりと発表していました。本校生徒も「緊張します」と言いながらも、落ち着いた立派な態度で臨みました。そして、「ありがとう」が人と人の心をつないでいく、その大切さについて、堂々と発表することができました。



高校説明会を実施しました

7月12日(水)、生徒の高等学校への理解を深め、進路への意識を高めるため、高校説明会(第1回)を行いました。

今回は、いわき市内6校の県立高校にお声かけし、各高校の校長先生、教頭先生からその特色を教えてくださいました。2・3年生と3年生保護者が説明を受けました。

<2学期当初の予定>

日	曜	おもな行事
8/24	木	県下小中音楽祭(第1部合唱)いわき地区大会
25	金	2学期始業式、学校司書出役
28	月	夏休み課題テスト2年、実力テスト3年
29	火	二者面談～9/1、英語弁論大会、SC出役
30	水	
31	木	学校司書出役
9/1	金	生徒会委員会、学校司書出役

<今週の言葉>

◎「人生はマラソンだ」

(石坂泰三 元第一生命社長)

大企業「東芝」の再建に努力するなど経済界で活躍した石坂さんが「短期的なことだけでなく、長期的な視点でも考えられるようにしよう」と語ったのが始まり。以後、様々な形で取り上げられています。少し前のリクルートのCMでは、ゴールは一つではない、という視点から「本当にそうか。自分だけの道があるんだ」と投げかけています。